

暑熱により食欲が減退した母豚に対する加水飼料の食欲増進効果							
<p>[要約] 暑熱期の母豚は食欲が減退し、分娩から離乳まで体重が著しく減少する。その対策として加水飼料を母豚に給与した結果、飼料摂取量は増加し、発情が早くなる傾向を示したが、子豚への発育効果は明らかでなかった。</p>							
畜産研究所・中小家畜部・養豚研究室					連絡先	092-922-4100	
部会名	畜産	専門	飼育管理	対象	家畜類	分類	普及

[背景・ねらい]

西南暖地における夏期の暑熱は、豚の食欲を減退させる。そのため母豚は分娩から離乳までの間、給与された配合飼料を十分に摂取しないため、体重が著しく減少し、授乳中の子豚の発育や離乳後の母豚の発情等に悪影響を及ぼしている。

そこで、母豚に給与する飼料に水を加えることで飼料摂取量の増加をはかり、授乳中の子豚の発育や母豚の体重減少、離乳後の繁殖性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

① 1日1頭当りの飼料摂取量は、飼料に水を加えたウエット、リキッド飼料が嗜好性が良くなり、それぞれ4.89kg、5.02kgとドライ飼料より約30%多く摂取する。特に、リキッド飼料はドライ飼料に比較して有意に多く摂取する(表4)。

② ウエット、リキッド飼料を給与すると、飼料摂取量が多くなり、母豚の体重減少率がやや小さく、発情再帰日数が4~9日早くなる。年間の分娩回数は、ドライ区は2.4回、ウエット区は2.6回となり、0.2回増加する(表4)。

③ 母豚への加水飼料給与による子豚の発育効果は明らかでない(表4)。

[成果の活用面・留意点]

暑熱期での授乳豚の飼料摂取量向上対策として豚飼養管理マニュアルに登載して利活用を図る。

[具体的データ]

表1 飼料への加水割合

飼料	水
アイス区	1:1 (飼料:水)
ウェット区	1:1
リキッド区	1:2
ドライ区	1:0

表2 母豚飼料給与量

分娩前	2 kg
分娩～2日	1
3日～4日	2
5日～6日	3
7日～21日 (離乳)	6

表3 期間中の平均気温

	3年度	4年度
最高	29.5 °C	29.2 °C
最低	24.6	24.5

表4 母豚の飼料摂取量、飲水量及び繁殖成績

(平成3～4年)

項目	試験区	アイス区	ウェット区	リキッド区	ドライ区
供試頭数	(頭)	5	5	10	10
分娩後体重	(kg)	231.9	209.2	215.9	210.4
飼料摂取量	(kg/日)	3.94	4.89	5.02 ^b	3.82 ^a
総飲水量	(ℓ/日)	18.0(14.0)	24.6(19.7)	24.1(13.9)	22.5
生産子数	(頭)	8.2	10.4	9.9	9.4
生時子豚平均体重	(kg)	1.55	1.36	1.38	1.45
離乳	// (kg)	5.74	4.76	4.78	4.84
子豚体重の総増加量	(kg)	40.0	28.0	35.0	33.0
母豚体重減少率	(%)	8.18	4.39	8.29	10.5
発情再帰日数	(日)	15.0	6.0	10.9	15.0
年間分娩回数	(回)	2.4	2.6	2.5	2.4

注) ①飼料摂取量の異符号間は1%水準(F検定)で有意

②飼料摂取量は風乾物量

③試験期間は平成3年7月11日～9月11日、4年7月1日～8月31日

④総飲水量はの()内は給水カップによる飲水量

⑤飼料摂取量と飲水量は分娩7日～離乳までの平均値

⑥子豚体重の総増加量は離乳時総子豚体重－生時総子豚体重の平均値

⑦発情再帰日数は離乳からの日数

[その他]

研究課題名: 飼料給与形態の改善技術

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (平成3～4年)

研究担当者: 佐藤充徳、投野和彦、大和碩哉

発表論文等: 平成3～4年度畜産関係試験成績書